

# 酒々井町郷土研究会々報

第45号

昭和62年7月1日  
発行  
酒々井町郷土研究会  
編集部

## 石仏について

会田 秀雄

双体道祖神について調べてみると、  
たいと思えます。双体道祖神とい  
はいつたい何なのか、諏訪地方  
の人々が信奉した道の神であり、  
防墓の目的をもった神であるとい  
われています。昔は木で作った  
神像であったようです。石像

道祖神は江戸中期以後世の中が  
落ちつき、ひと通り大名の城が完  
成し、そのため失業した石工が  
村々を廻り、思い思いの構想で彫  
像したものと考えられるのです。  
何故ならば江戸中期(宝暦の頃)  
に種々の流行神がはやりました。  
この流行神仏というのは神仏が  
習合化した形として表現されて  
庶民信仰にひと役買ったのです。

長野県、群馬県等その他の地  
方にある双体道祖神は半肉の浮  
彫りであり、神形、俗人形、文  
字形、その他形体も種々雑多で

あります。ところが酒々井町にあ  
る双体道祖神は僧形で丸彫り、  
然も三本足で杖をついている像で  
他に類を見ないものであります。

何故三本足であるのかについては、  
石工の想像性であるとか、杖を  
彫るために一本、足が彫り込め  
なかつたとか、又は女神が寄り  
そい半身にいるためとか色々の説  
があります。

又浮彫りならば安価で出来る  
ものを高価な丸彫りにしたのは何故  
であろうか。各地域の環境、風習、  
生業などの違いによってこれらの道  
祖神への願いが必ずしも同じでない  
ところから、石像の姿も異なって色々  
な道祖神が生まれたものと思われ  
ます。

又道祖神は道陸神と同一神だとい  
えられております。道陸神につ  
いて面白い話があります。道陸神  
は足の悪い神様で弁天様に言いよ  
ったが逃げられてしまった。しかし  
なおも追いまわしたので、追いつ  
められた弁天様は一本丸太の橋

を渡って池の中の島へ逃げこんでし  
まった。道陸神は一本橋は渡れ  
ないので仕方なく道の曲り角に立  
って弁天様の出て来るのを待って  
いるのだという話で、道陸神が  
足が悪かった事から始まったもの  
であります。この伝説の裏づけと  
も言えるものが、当町の道祖神に  
見受けられます。前にものべまし  
たが、宝暦年間に流行神がはやり、  
庶民信仰の一つとして当町独特の僧  
形神が生まれ、又地藏信仰との  
習合体により僧形になっているの  
はないかとも考えられます。

なお、参考までに申しますと江  
戸初期は僧形で、元禄前後は神  
像形のものが見られます。宝永頃は互に  
手をとりあったりの形のもの、享保  
の頃には祝言形(盃と銚子で酒を  
つぎあう)がはやり、江戸末期か  
ら明治にかけては像のまわりに雲  
を彫ったりの装飾をほどこした道  
祖神というよりも山の神、田の神に  
した方がふさわしいものまで現れ  
てきます。

複雑かつ多目的な民俗神でありま  
すので、今後も双体道祖神を調べ  
てみたいと思っております。



## 酒々井町史通史編刊行!!

郷土研究会の皆様にも長い間待たされておりました酒々井町史通史編がこの度刊行されました。長い間編さんに従事されました相京前会長さんには本当に御苦勞さまでした。町の歴史を知るために購入御希望の方は役場編さん室までお申込み下さい。定価は2万円です。

なお相京さんより町史に載せた『町の石仏と文化財』の項の抜刷りを郷土研究会に250部御寄贈いただきました。御好意に甘えて郷土研究会の活動資金とするために1部100円にておわけいたします。旅行の申込み日や郷土研究会の行事日に是非お求め下さい。



酒々井町植物余談(二)

木本 氏幹

昭和五十一年に千葉、千葉県農事試験場をたずね、水田雑草をいろいろ見せていただいたとき、武市義雄技師は「フログワイは酒々井に行けば沢山みられますよ」といわれました。

ところが一昨年の私どもが行った調査では、高崎川沿岸の水田や中央排水路沿いの水田を端から端まで見回ったがフログワイは一向に見当たらず、もう、すっかり除草されてしまったものかと思っておりました。しかし、秋遅く墨地区のわき水のあるらしい水田でやっと数本のフロググワイを入手しました。高崎川沿いの佐倉側の休耕田には沢山生えているところがあります。

(フロググワイ)



また前にも書きましたイシシカワは、川辺の湿り気の多い草地でよく見かけるトゲのひどい草で

ちよっとお知らせ

去る6月9日(火)の朝日新聞の朝刊に、こんな記事が載りました。御気付きの方もおられると思いますが、我々が「前会長」の一面を知るために御参考までに転載いたします。

秋になってルリ色の実が美しいけれども、人に採り尽されるほど鑑賞価値のある草とも思えません。以前は普通に見られたものが現在見当たらないということは、昭和三十七年から四十三年にかけて行われた高崎川の改修と水田の耕地整理の結果、排水がよくなって植生が変わってしまったほどの効果を挙げているのかも知れません。

水田をお持ちの方、古老の方のお話を聞きたいものです。

七ば史茶推

ひよたんから駒(こま)、と... まうのが、田橋稲荷神社の稲京... 蹟次さん(の)一島田家文書との出合いだ。失礼な通達だが、ご本人も、そんな心境であることは間違いない。建設会社を定年退職し、自遊の田田を送っていた稲京さん、町史編さん委員を、その声がかかったのは、土曜前だった。高等小



Table with 3 columns: 月日 (Date), 内容 (Content), 参加人数 (Number of Participants). It lists various activities like '史談会' and '山菜を食べる会' with their respective dates and participant counts.

細見 再検

Financial report table with columns for '収入' (Income) and '支出' (Expenditure). It lists items like '会費' and '材料費' with their respective amounts.

Financial report table with columns for '収入' (Income) and '支出' (Expenditure). It lists items like '会費' and '弁当代' with their respective amounts.

山菜を食べる会

会計報告

水更津方面見学会



木更津の春風にのつて

中央台 尾沢 終竹

現世に極楽浄土を念願するものは一人ではないでしょう。その意味で郷土を探訪して新しい発見をすることの出来る、この郷土研究は、何よりの喜びであり、また人々の心合いの場として、何よりも得難いものと思っております。

さて、木更津を中心とした妙泉寺を始の由緒ある名刹には深い感動を覚えました。特にその中の証誠寺は、大きな碑に童謡が刻まれてあったのが印象的でした。

春風や揺ぐが如しわうへ唄  
沙羅の木の下三四つ若葉の花  
妙泉寺の梵鐘は禅寺の修業雲水を偲ばせ。山門の簡素な美は、まさに山寺の風趣を伝えるのに充分であった。

山門のうちもたんぼはなかりぬ  
古刹今もみれば蒲公黄 浄土かな  
阿弥陀如来像の前で、才又さんの禅のお話を聞きながら、みんな美しい顔をして、現世の浄土にしばし徘徊していたのではないだろうか。

うたかたのかりのせなれど風薫る  
こころも忘れられない。昔、懐しい遠足の目如く、緑陰で吉鼓を打つ。幹事の方が車中でお弁当の感想を聞かれましたが、殆どの方が満足の様子で、

会長さん始めの気配りの行届いて居られることに感謝の気持ちで一杯でした。

最後に郷土研が多くのの方々のために、幸せをもたらし、勉強の場として益々栄えることを心から祈念して止みません。

生かされて晩き学びに春灯し  
行く春の昔の花菜に風の過ぎ行けり

我が町しすい

河上 嘉代子

息子等と同居なしつつ

草池をよぎる

終の地かと思ふ

「酒々井にも

まだ緑は一杯あるよ」と息子夫婦

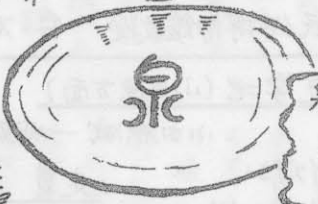
が案内してくれたのは酒々井小学校、東光寺、数橋咲く下

台の麻賀多神社でした。

六甲山麓より、矢作川の畔に移り二十年住み慣れ、そこから山も河もない酒々井町に住んではや四年目。縁あって根古

谷城跡そばのお寺に墓地を授かり、主人と元氣で「しすい町」の人となりました。

五十八年文化祭の歌会の席で上座の年輩の方に郷土研究会にお誘い戴いてより、市川市内の手吉茶堂を皮切りに、矢切の渡しを渡りました。先住の



泉  
み泉のよう  
に休まな  
いなが  
いでつき  
こんでも  
かんとま  
をくばあ  
よやまは  
どうぞ

豊田市での「古典を楽しむ会」の講師先生の「東京へ行ったら手吉茶堂を再訪よ」のお言葉が余りに早く実現出来た嬉しさに感動したものでした。

また川越の喜多院に行ったときに、友達と顔の字を読み倦れ居ましたら、お若い方がさげなく教えて下さいました。微かに揺れる螢袋を一本刈り残した横沓古墳の草刈りも、足を悪くした今となつては楽しい思い出となりました。

殊に十周年の行事は見事なものでした。郷土研にて得た数々の知識

又人の心の暖かさに觸れた喜びは、計り知れないものです。郷土研に心血を注いで来られた方々に心から賛辞を捧げ、よき師と仰ぎよき友を得た幸いを感謝しながら、これからとも友を誘ってしすい讚歌を謳歌し続けて参ります。

名勝探訪見学記

一 佐倉道を歩く② K子

前回の江戸日本橋から山馬町の吉田松陰終意の地までは、大層歩きくたびれましたが、再び元氣を取り戻して、日本橋横山町から浅草駒形橋のたもとまで

「ちのおの方、いっ参らむ!!」五月十日(日)この日横山町界隈はお祭りで笛、太鼓、山車が繰り出し、神輿が据えられての火にさわい。気が外れそふなのを本街道をみきわめに日本橋方面を眺めやり、取って返して薬研堀不動院、その横溝が順天堂祭祥の地で、佐藤泰然(二八四)一八七三)がまた和百姓の時こいで医業を開いたといひます。両国橋のたもとの広小路へ出て記念碑を見る。大川(隅田川)へ入る支流の神田川に懸る柳橋は、余り風情がありませんが汚れてる川の中に鯉が教匠いました。初音の森、馬場跡、郡代屋敷など面影うきものもなまに、浅草橋を渡って見附跡を通り、総武線浅草駅のカドをくぐります。大通りの左右に久目、香月その他の人形店が立ち並び、ところを左の閻魔堂、右へ移って浅草文庫は国会図書館の元祖です。御蔵跡、首尾の松も碑文がなければ護国堂と建物で昔を思ふ事が出来ません。

蔵前橋で昼食時となりましたが、食事する店屋が見当たらず駒形まで行つて、とせうは見送りうばさうにいたしました。午後からは予定の道順を逆に京吾殿川柳の墓、茂吉の歌碑、春章の墓を廻り地下鉄蔵前から帰りました。天候にめぐまれての同行十人、男女仲よく五人ずつ送りました。メテオシ、メテオシの一日で

「おのおの方、ごくろうごくろう」でした。

	7月	8月	9月
史談会	4日(土)午後1:30 古今佐倉真佐子を読む会 中央公民館	休み	5日(土)午後1:30 古今佐倉真佐子を読む会 中央公民館
石仏調査	5日(日)午前9:00集合 中央公民館(雨天中止)	2日(日)午前9:00集合 中央公民館(雨天中止)	休み
名勝探訪	7月7日(火)午前8:00 京成酒々井駅集合(雨天中止) 代替日7月9日(木) 5/14 実施予定であった「佐倉道を歩く」が雨のため延期になった代替(8・9月は休)		
文化財愛護	7月12日(日)午前7:00 現地集合 — 上岩橋貝層、カカムロ横穴古墳、草刈り遺構 午前9:00 現地集合 — 伊篠松並木、草刈り遺構 (雨天中止) 代替日 7月19日(日)に実施します。		
県内見学会	7月20日(月) A班 35名 見学地(松戸方面) 本福寺—本土寺—万満寺—酒々井 22日(水) B班 35名 会費 ¥ 1,000円 27日(月) C班 35名 申込み 出発 午前8:30 中央公民館前 受付 7月10日(金)午前9:00より中央公民館ロビー (お茶は各人用意して下さい) キャンセル 見学の3日前まで 会田秀雄		
歴博見学会	8月20日(木)午前9:00 京成酒々井駅集合(雨天実施) 多数御参加を 国立歴史民俗博物館展示物を楽しく見学します 大歓迎です		
郷土史講座	8月8日(土)午後1:30 中央公民館 視聴覚室 多数の御来聴お待ちしております 演題 『酒々井町大鷲神社古墳発見の石枕をめぐる』 講師 国立歴史民俗博物館教授 白石 太一郎 先生		
県外見学会	9月11日(金) 見学地(小田原方面) 出発時間 小田原城—城跡公園—二宮神社—大久寺—酒々井 午前6:20 光ドライブイン 定員 100名 会費 ¥ 4,000円 6:25 日栄クリーニング前 申込み受付 受付日—9月3日(木)午前9:00より受付 6:30 中央公民館前 受付場所—中央公民館ロビーに於て キャンセル受付—旅行日の3日前 9月7日(月)まで 会田秀雄迄		

県内見学会  
7/20 7/22 7/27  
(月) (水) (月)

県外見学会  
9/11 (金)

編集後記

青葉若葉の緑もすがすがしく自然に親しみ、絶好の季節。でも六月の雨と共に連日真夏日を記録、今から梅雨に入ると言うのに一体どうなっているのでしょうか。郷土研の諸行事も皆様に喜んで参加して頂けるよう考えて予定を組んで居ります。暑さに負けないうちにお誘い合わせ御参加をお待ちしております。クレーンのお部屋にいるよりも健康的で楽しいと思います。そして感想などお寄せ頂ければ幸いです。お暑く折御健康をお祈りします。では又次号で!

本福寺  
嘉永元年遊行三代真教上人の開山と伝える。水戸藩士で、萬王論者佐藤久太郎の墓や、切られ地蔵と呼ばれる胸に30cmほどのナマナミ、傷跡がある伝説の地藏尊石仏がある。

万満寺  
臨済宗大徳寺派の寺。建長年間、千葉介頼胤が鎌倉極楽寺の僧 良観を招いて建立した真言宗大日如来が、当時の開基とされている。仁王門の両側の金剛力士立像二体は国の重要文化財に指定されている。

本土寺  
文永六年小泉(地方代官)陰山土佐守が日蓮上人を小倉に招き狩野松原に一堂を建てた。これが当時の開基と伝える。境内のアジサイは二本近くあり、六月と七月にかけて楽しめる。アジサイ寺とも呼ばれている。

名勝探訪  
前回の五月十四日雨で中止になった「佐倉道を歩く」②を8月に行きます。八時に京成酒々井駅に集まって下さい。資料を渡しますので記入用の筆記具をご用意して来てください。お待ちしております。

大久寺  
大久保家の菩提寺。墓地には初代忠忠、二代忠隣を祀り、一族七墓の墓石がある。

石橋山古戦場  
石橋山の西側斜面にあり、源頼朝が平家方に敗れた古戦場である。

小田原城  
戦国時代、北条早雲が築いた城郭で、天正十八年豊臣秀吉の小田原攻めで落城、江戸時代には大久保氏が城主となった。

二宮神社  
天守閣の西側下。農聖とされた二宮尊徳を祀る。報徳博物館

ここは二宮尊徳の遺品が展示されている。